

はじめに

当社は、平成17年4月25日、福知山線において、106名ものお客様の尊いお命を奪い、500名を超える方々にお怪我をさせるという、極めて重大な事故を惹き起こしました。

ここに改めまして、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、お怪我をされた方々の一日も早いご快癒を祈念いたします。また、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とご家族の皆様のお悲しみやお苦しみに対し、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。

さらに、航空・鉄道事故調査委員会(現在の運輸安全委員会)による調査の過程で発生したコンプライアンス上の重大な問題について、多大なご不信の念を与え、ご心情を害してしまいましたことを、ご遺族の皆様、お怪我をされた方々とそのご家族の皆様、関係するすべての方々に対し、重ねて深くお詫び申し上げます。

現在、安全性向上に向け、平成20年度初から5ヵ年計画である「安全基本計画」に基づき、継続的に安全投資を行うとともに、現場重視・技術重視に徹底してこだわり、JR西日本グループをあげてこの計画を推進しています。

本計画の根幹である安全マネジメントの確立に向けた取り組みでは、安全報告などに対してすべての職場でリスクアセスメントを行い、現場・支社・本社においてリスク低減策を実行することにより、安全性や安全意識が着実に向上しているものと考えています。

また、航空・鉄道事故調査委員会の「福知山線列車脱線事故の調査報告書」に示された数々のご指摘事項に速やかに、かつつぶさに対策を講じることも安全性を具体的に向上させる方策であると考え取り組んでいます。

しかしながら、重大な事象の発生は無くなっていないことから、そうした事象に対しても原因を究明し、各々の事象を貴重な教訓として、さらなる安全性の向上に努めてまいりたいと考えています。

今後も引き続き、私ども経営陣が、強い意志とリーダーシップのもと、より高い安全の追求と実現に向けて全力をあげて取り組んでまいります。

当社は、経営の三本柱である「被害に遭われた方々に誠心誠意と受け止めていただけるような取り組み」「安全性の向上に向けた取り組み」「変革の推進」をより一層充実させ推進してまいります。そして、福知山線列車事故を決して忘れることなく、お客様のかけがえのない尊い命をお預かりしている責任を自覚し、安全第一を積み重ね、お客様から安心、信頼していただける鉄道を築き上げます。

この報告書では、鉄道事業法第19条の4に基づく事項を含め、当社の安全確保に向けた取り組みについてご紹介しております。この報告書に対するご意見やご助言などを賜ることができれば幸甚に存じます。



代表取締役社長

佐々木 隆之